

## はじめに

この統計は、糸島市消防本部管内における、令和元年中の火災・救急・救助等に関し、今後の消防行政上の資料とするため作成したものです。

## 目次

### 火災編

1	火災の推移	P	1
2	火災の状況	P	2
3	出火件数	P	3
4	損害額	P	4

#### 付属資料

資料1	月別の火災状況	P	5
資料2	月別の火災損害額	P	5
資料3	月別原因別の出火件数	P	6
資料4	校区別の出火件数	P	7

### 救急・救助編

1	救急出動件数の推移	P	8
2	救急出動の状況	P	9
3	事故種別の救急出動件数	P	10
4	住所・傷病程度・年齢別の搬送人員	P	11～12
5	救助活動の推移	P	13
6	事故種別の救助出動件数	P	13

### 警戒編

1	警戒出動件数の推移	P	14
2	原因別の出動件数	P	14

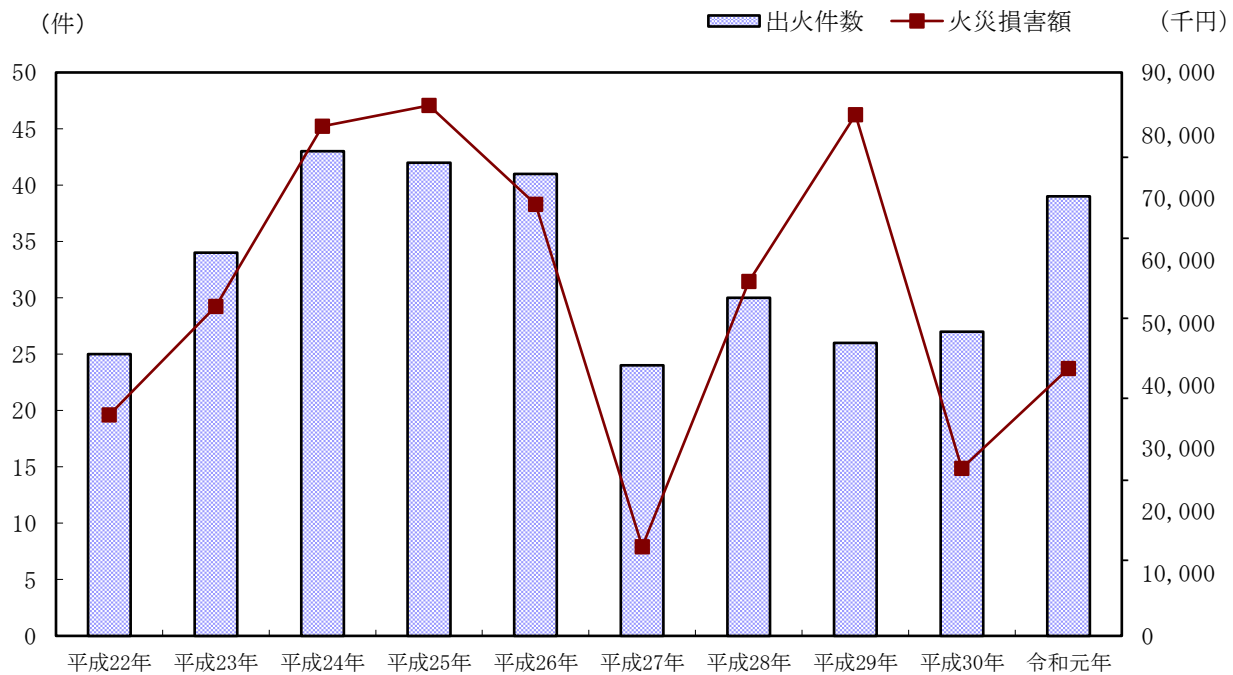
# 火 災 編

# 1 火災の推移

令和元年中の出火件数は39件、火災損害額が42,732千円で前年に比べ出火件数は12件増加し、火災損害額は15,981千円増加している。

最近10年間の平均出火件数は約33件、平均火災損害額は約54,658千円である。

最近10年間の出火件数と損害額の推移



年中 区分	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	10年間平均
出火件数	25	34	43	42	41	24	30	26	27	39	33
火災損害額 (千円)	35,287	52,639	81,424	84,727	68,928	14,257	56,603	83,230	26,751	42,732	54,658

## 2 火災の状況

令和元年中の出火件数39件は、およそ9日に1件の割合で火災が発生したことになる。

令和元年中の火災による死者は前年と変わらず0人、また、負傷者は3人で、前年に比べ2人増加している。

概況表

区分		年中		
		令和元年	平成30年	比較
出火件数	建物	21	7	14
	林野	2	1	1
	車両	3	3	0
	船舶	1	0	1
	その他	12	16	△4
	計	39	27	12
損害額 (千円)	建物	39,865	25,249	14,616
	林野	0	0	0
	車両	532	1,170	△638
	船舶	1,753	0	1,753
	その他	582	332	250
	爆発	0	0	0
	計	42,732	26,751	15,981
焼損面積等 (注)	建物			
	床面積 (㎡)	912	309	603
	表面積 (㎡)	92	115	△23
	林野 (a)	30	1	29
	車両 (台)	8	3	5
船舶 (隻)	3	0	3	
焼損棟数 (棟)		26	9	17
り災世帯数 (世帯)		13	8	5
り災人員 (人)		26	14	12
死者数 (人)		0	0	0
負傷者数 (人)		3	1	2
1日平均発生件数		0.11	0.07	0.04
1日平均損害額 (千円)		117	73	44
1件当たり損害額 (千円)		1,096	991	105
1人当たり損害額 (円)		420	263	157
出火率 (件/人口1万人)		4	3	1

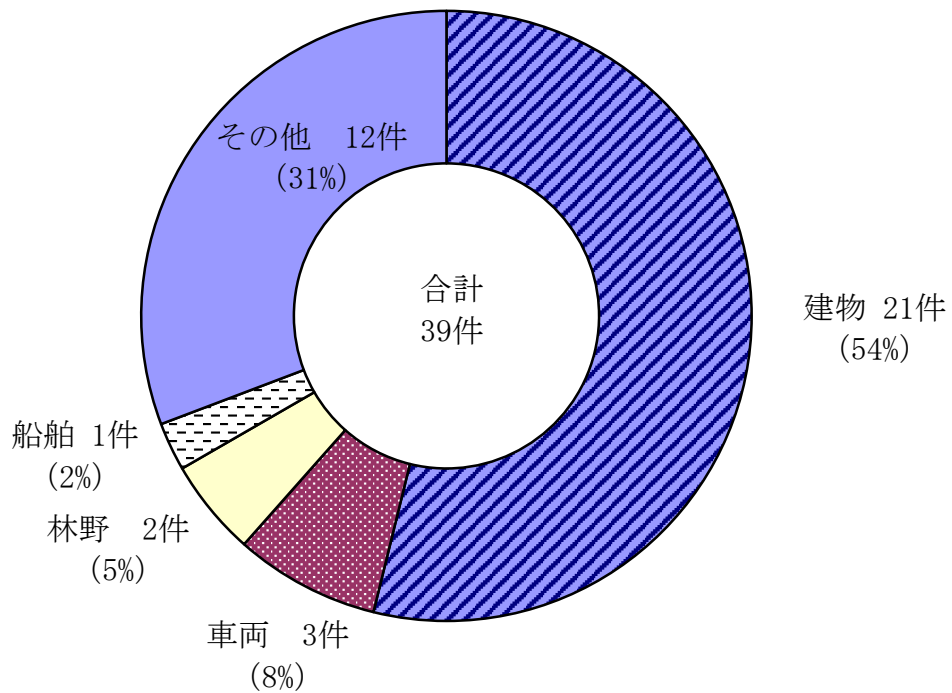
(注) 焼損表面積とは建物の焼損が部分的である場合をいう。(立体的に焼損が及ばなかった場合)

(参考) 管内の人口は101,857人(令和元年12月末現在)

### 3 出火件数

令和元年中の火災種別による出火件数は、建物火災が21件発生し、全体の約54%を占め、次いで車両火災、林野火災の順となっている。

火災種別出火件数

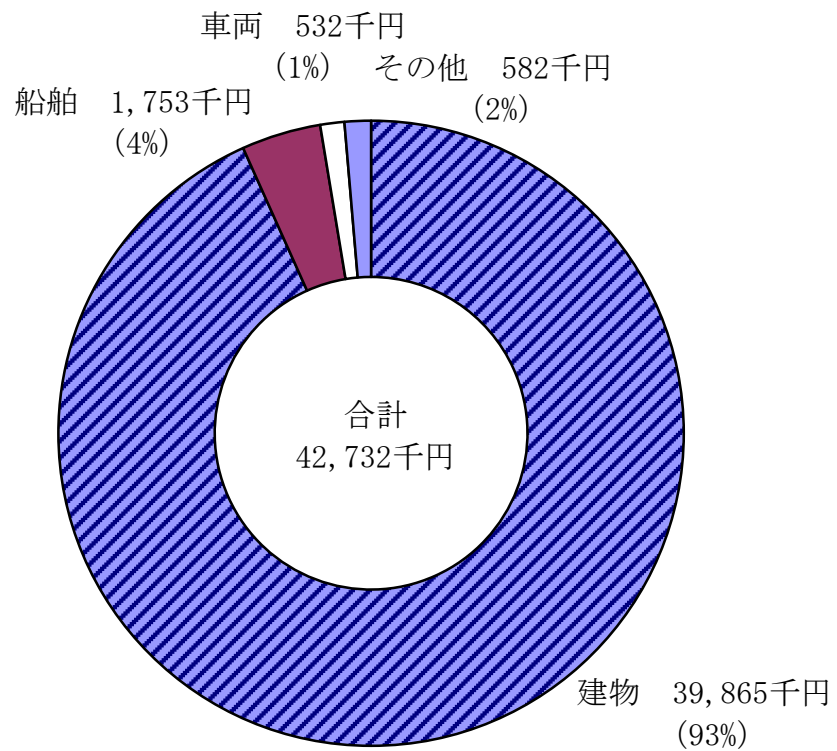


## 4 損害額

令和元年中の火災損害額は42,732千円で、前年に比べ15,981千円増加している。

損害額を火災種別で見ると、下図に示すとおりである。

### 火災種別損害額



資料1 月別の火災状況

区分 月別	出火件数						焼損棟数					り災程度				死傷者数		焼損面積等				
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	り災人員	死者	負傷者	建物 (㎡)	林野 (a)	車両 (台)	船舶 (隻)
1月	5	2				3	3		1	2		1		1		8			311			
2月	6	5				1	4	1		1	2	2			2	4		1	112			
3月	3	1		1		1	1			1		1		1	4			6			1	
4月	3	2		1			3	2			1							82			6	
5月	6	2		1		3	2	1		1								270			1	
6月	1	1					5	1	1	3		2		1	1	4			106			
7月	3	3					3			2	1	3			3	3			5			
8月	2	1	1				1			1		1		1	3		1	8	30			
9月	5	2	1		1	1	2			1	1											3
10月	4	2				2	2			1	1						1	12				
11月																						
12月	1					1																
合計	39	21	2	3	1	12	26	5	2	12	7	10		2	8	26		3	912	30	8	3

資料2 月別の火災損害額

区分 月別	損害額 (千円)								
	合計	建 物			林野	車両	船舶	爆発	その他
		小計	建物	収容物					
1月	11,087	11,081	9,023	2,058					6
2月	9,314	9,140	8,809	331					174
3月	805	582	578	4		20			203
4月	1,700	1,228	1,060	168		472			
5月	2,189	2,139	2,127	12		40			10
6月	13,021	12,992	12,179	813					29
7月	964	964	957	7					
8月	1,324	1,324	919	405					
9月	1,790	37	37				1,753		
10月	538	378	374	4					160
11月									
12月									
合計	42,732	39,865	36,063	3,802		532	1,753		582



資料3 月別原因別の出火件数

区分	月別												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
こんろ			1				2						3
たき火	1				3								4
放火													
放火の疑い													
たばこ		1		1									2
風呂かまど													
焼却炉													
煙突・煙道													
電気機器		1											1
電灯・電話等の配線	1						1						2
配線器具													
火あそび								1					1
マッチ・ライター		1											1
溶接機・切断機				1									1
火入れ					1								1
かまど													
炉													
ストーブ		1											1
こたつ													
ボイラー													
排気管				1	1								2
電気装置													
内燃機関													
灯火													
衝突の火花													
取灰													
その他	2	1	1							1			5
不明	1				1	1							3
調査中		1	1					1	5	3		1	12
合計	5	6	3	3	6	1	3	2	5	4		1	39

資料4 校区別の出火件数

校区別 \ 火災種別	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計
波 多 江			1		2	3
東 風	2				1	3
前 原	5				1	6
前 原 南	1					1
南 風	1				1	2
加 布 里	1				1	2
長 糸					1	1
雷 山	2		2		1	5
怡 土	2				1	3
一 貴 山						
深 江						
福 吉	1	1				2
可 也	2				1	3
桜 野	1					1
引 津	3	1		1	2	7
合 計	21	2	3	1	12	39

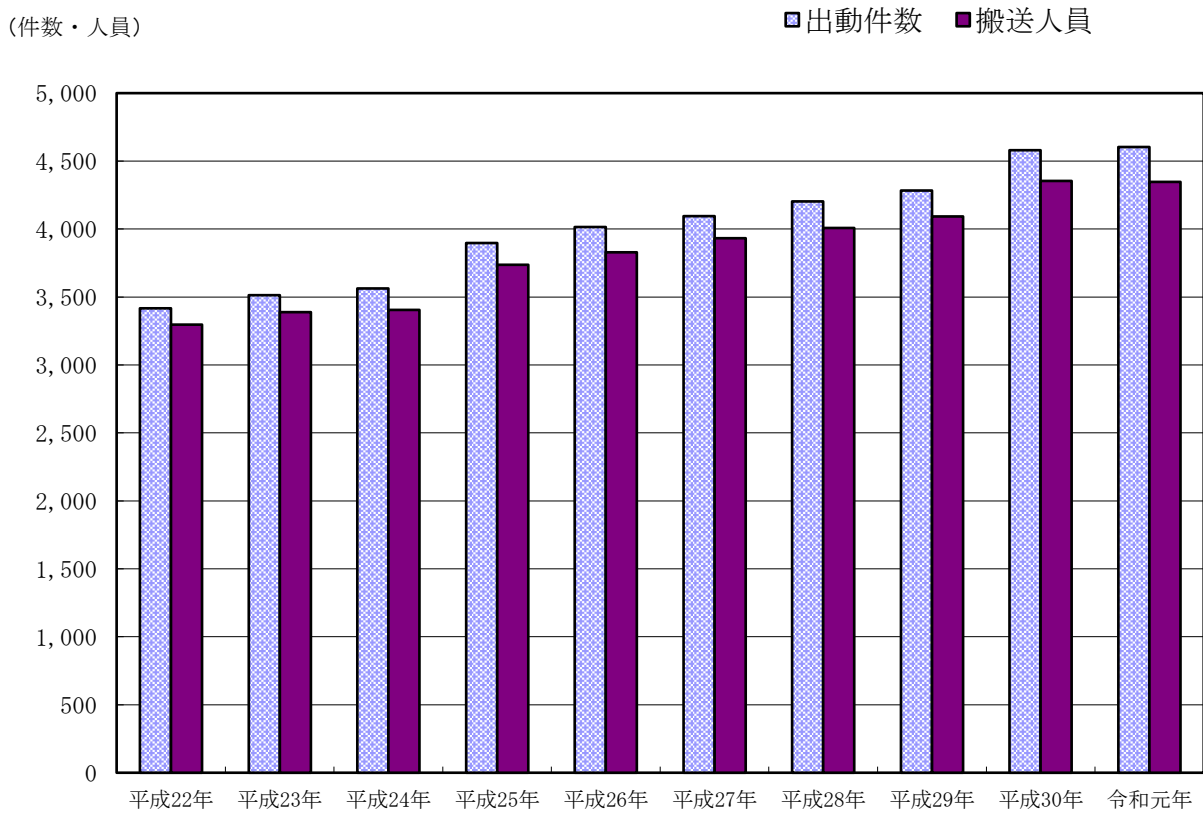
# 救急・救助編

# 1 救急出動件数の推移

令和元年中の救急出動件数は4,604件、搬送人員は4,348人で前年に比べ出動件数は24件増加、搬送人員は6人減少している。

最近10年間の平均出動件数は約4,017件、平均搬送人員は約3,839人である。

## 最近10年間の救急出動件数及び搬送人員の推移



年中 区分	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	10年間平均
出動件数	3,416	3,513	3,564	3,898	4,015	4,094	4,203	4,283	4,580	4,604	4,017
搬送人員	3,298	3,388	3,405	3,737	3,830	3,932	4,007	4,092	4,354	4,348	3,839

## 2 救急出動の状況

令和元年中の救急出動件数4,604件は、1日平均約13件出動したことになる。また、令和元年中の搬送人員4,348人は、住民の約23人に1人が搬送されたことになる。

概況表

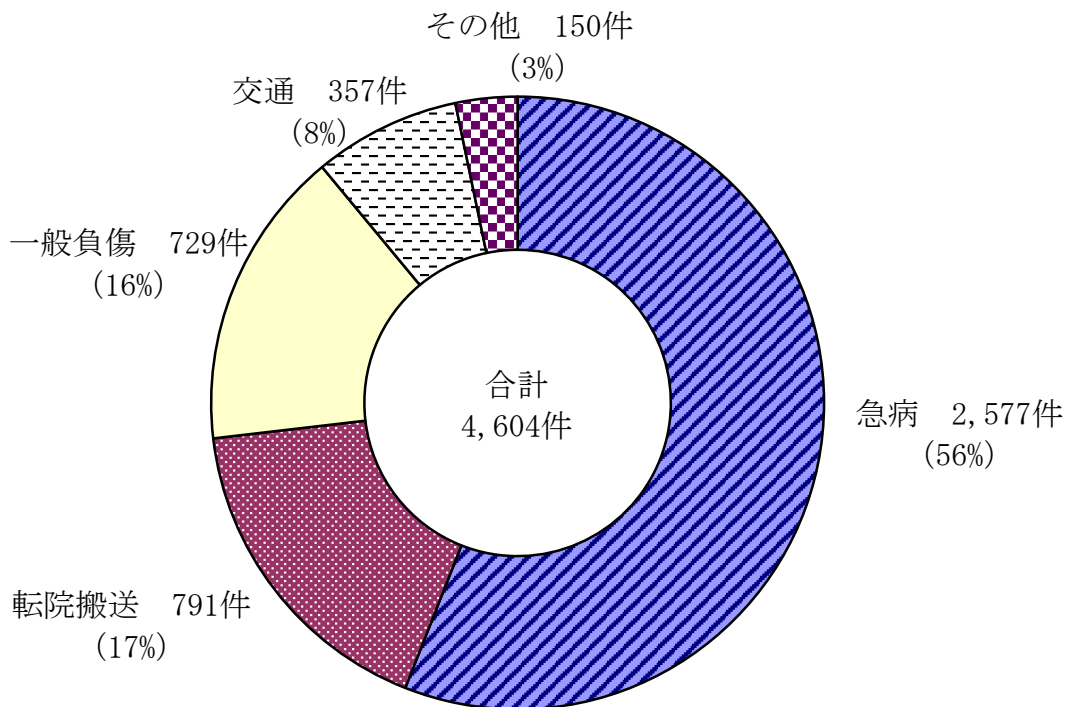
区分		年中	令和元年	平成30年	比較	
出動件数	急病		2,577	2,594	△ 17	
	交通		357	331	26	
	一般負傷		729	712	17	
	自損行為		35	28	7	
	労働災害		35	43	△ 8	
	加害		14	13	1	
	運動競技		31	37	△ 6	
	火災		5	13	△ 8	
	水難		4	4	0	
	自然災害		0	0	0	
	その他	管内転院搬送(注1)		83	71	12
		管外転院搬送(注1)		708	692	16
		医師搬送		0	0	0
		その他		26	42	△ 16
計			4,604	4,580	24	
1日平均			12.6	12.5	0.1	
不搬送			289	275	14	
搬送人員	性別	男	2,184	2,219	△ 35	
		女	2,164	2,135	29	
	計			4,348	4,354	△ 6
	程別	死亡(注2)		3	0	3
		重症(注3)		412	427	△ 15
		中等症(注4)		2,433	2,404	29
		軽症(注5)		1,500	1,523	△ 23
		その他(注6)		0	0	0
	計			4,348	4,354	△ 6
	1日平均			11.9	11.9	0

- (注) 1. 転院搬送とは、医療機関に収容されている傷病者を他の医療機関に搬送することをいう。(管内とは糸島市内、管外とは糸島市外への搬送をいう)  
 2. 死亡とは、初診時において死亡が確認されたものをいう。  
 3. 重症とは、傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするものをいう。  
 4. 中等症とは、傷病程度が重症又は軽症以外のものをいう。  
 5. 軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないものをいう。  
 6. その他とは、医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、並びにその他の場所に搬送したものをいう。(消防ヘリに引き継いだもの等)

### 3 事故種別の救急出動件数

事故種別による救急出動件数は、急病によるものが全体の約56%で半数以上を占め、次いで転院搬送、一般負傷の順である。

事故種別救急出動件数



## 4 住所・傷病程度・年齢別の搬送人員

令和元年中の救急搬送人員を住所別にみると、糸島市民が3,795人で大多数を占め、管外住民が552人である。また、傷病程度別にみると、重症と中等症の合計が全体の約65%で、軽傷が約35%である。

さらに年齢別でみると、65歳以上が全体の約62%を占めている。

図1 住所別の搬送人員

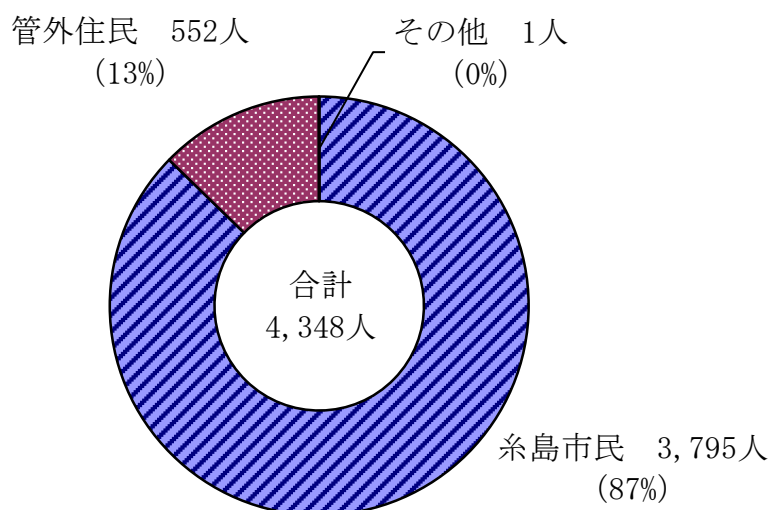


図2 傷病程度別の搬送人員

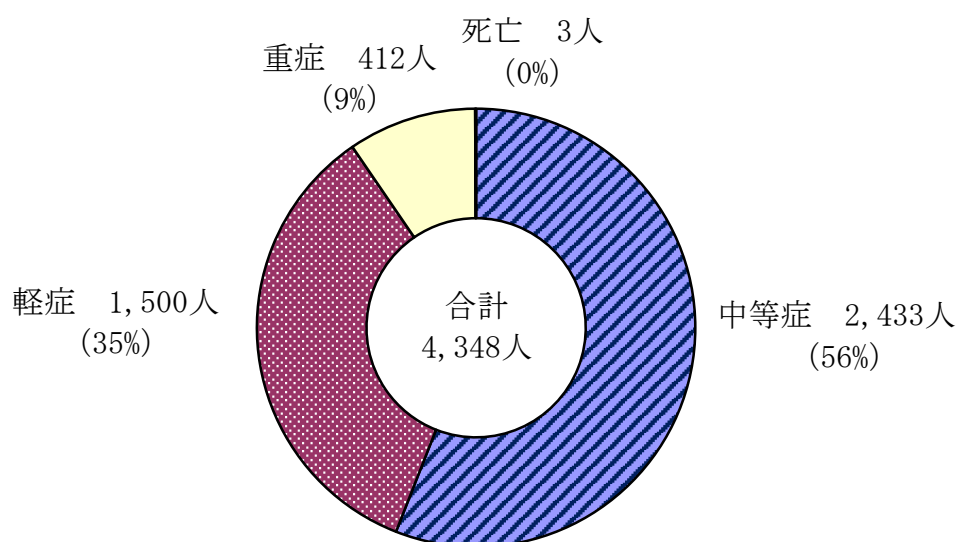
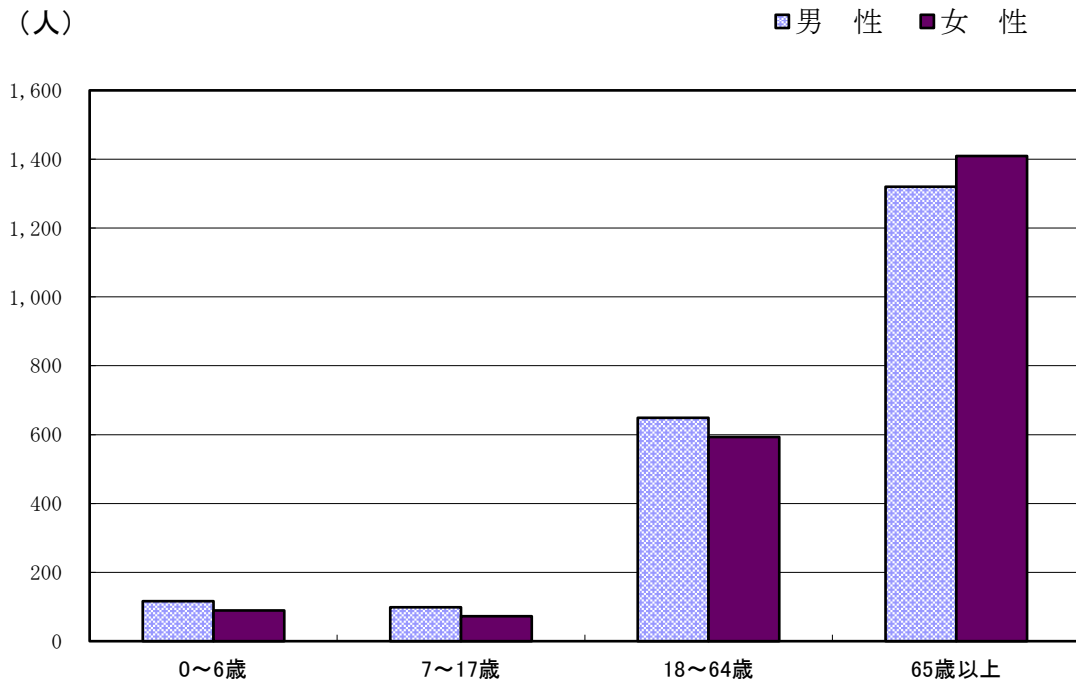


図3 年齢別の搬送人員



年齢 性別	0~6歳	7~17歳	18~64歳	65歳以上	計
男性	116	99	649	1,320	2,184
女性	89	73	593	1,409	2,164
計 (人)	205	172	1,242	2,729	4,348
比率 (%)	5	4	29	62	

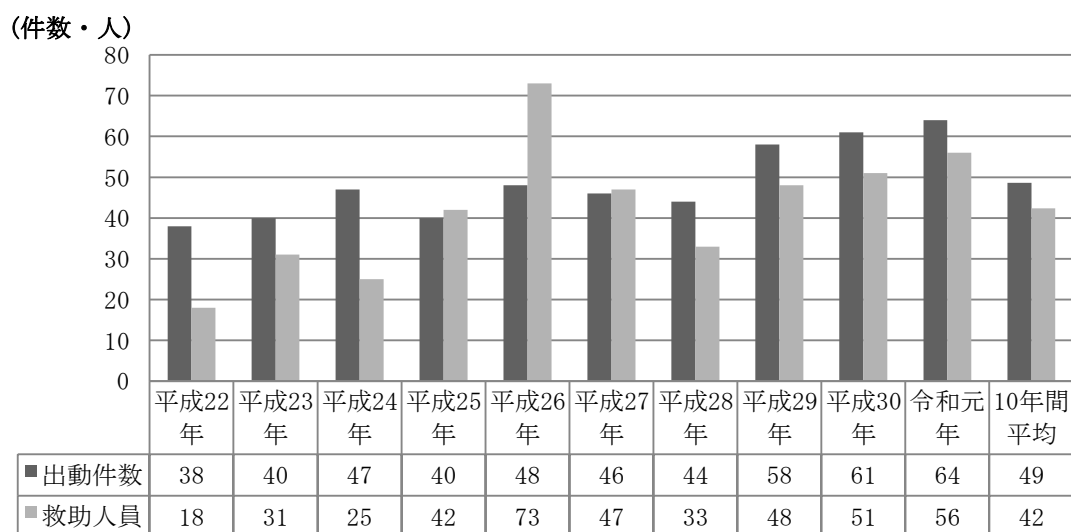


## 5 救助活動の推移

令和元年中の救助出動件数は64件、救助人員は56人で、前年に比べ出動件数は3件、救助人員が5人増加している。

最近10年間の平均出動件数は約49件、平均救助人員が約42人である。

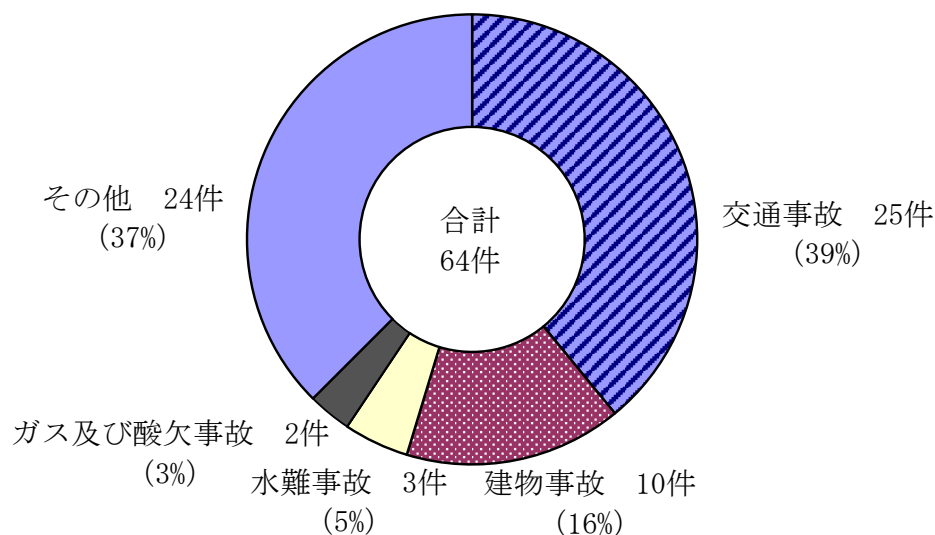
### 最近10年間の救助出動件数及び救助人員の推移



## 6 事故種別の救助出動件数

事故種別による救助出動件数は、交通事故によるものが全体の約39%を占め、次いで建物事故、水難事故の順である。

### 事故種別の救助出動件数





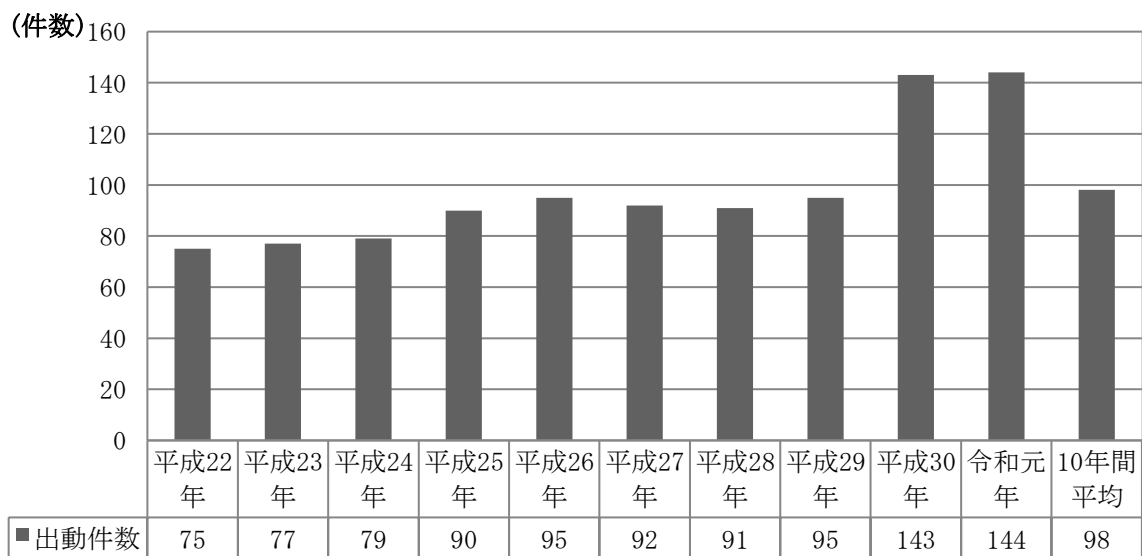
# 警 戒 編

# 1 警戒出動件数の推移

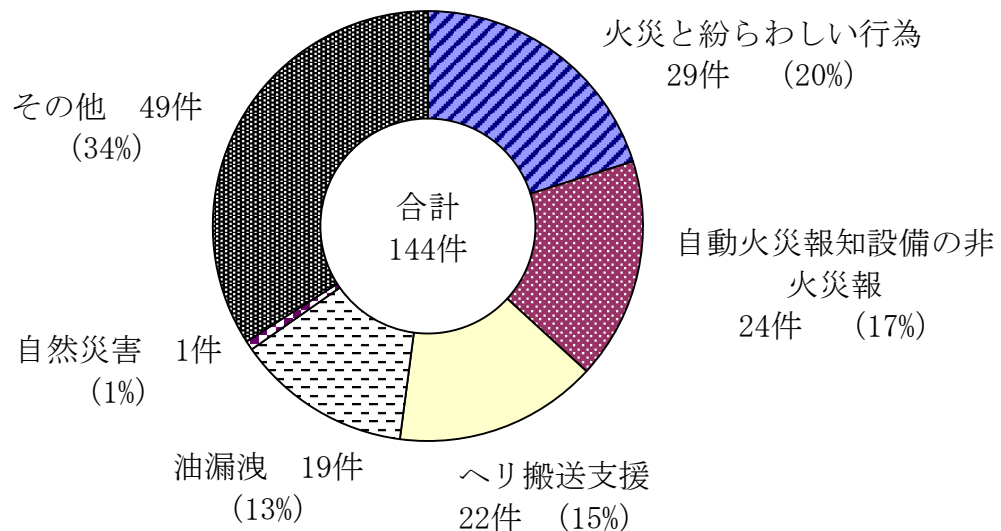
令和元年中の警戒出動件数は144件で、前年に比べ1件増加し最近10年間の平均出動件数は約98件である。

出動件数を原因別にみると、火災と紛らわしい行為によるものが全体の約20%を占めており、次いで自動火災報知設備の非火災報、ヘリ搬送支援の順である。

## 最近10年間の警戒出動件数の推移



## 2 原因別の出動件数



(注) ヘリ搬送支援とは、ヘリコプターで傷病者の搬送を依頼する場合にヘリコプター臨時離着陸場の安全を確保するため、消防隊が出動したものをいう。